

なな山だより

なな山緑地の会会報 第13号 2008・10

学生のリポーターがなな山に来ました



8月10日(日)の活動日に大学生リポーター二人がなな山緑地を訪れました。これは以前当会が助成金をいただいた花王と日本NPOセンターの共同企画で、大学生が支援した団体取材訪問、活動参加体験し、活動の紹介記事を作成する、記事はウェブサイトに掲載するというプロジェクトの一環で、当日は大学生の小島君、鈴木さん、NPOセンターの新田さん(写真=左)が活動に参加されました。

朝の挨拶からはじまり、まずなな山緑地内の見学と植物観察をしました(写真=右)。特に新しく管理地区になったエリアでは、手入れさ

れていない山が倒木・枯木だらけの状態なのを見て驚いている様子でした。その後、草刈りの実習、チェーンソーによる伐採、耕耘機による畑の耕しなどを体験しました。

午後は、活動参加記念に、樹木に付ける名札を作成、それぞれヤマザクラ、コナラ、クヌギに取り付けました。

翌日、再びなな山を訪れて、高木会長・なな山のスタッフから聞き取り取材を行いました。この活動体験を活かして、良い記事を書いて下さることを期待しています。



(写真) 左から = 耕耘機を体験 草刈りの実習
樹木の名札を作る 名札をクヌギに取り付ける

ボランティア講座の「懇親会」に参加しました

8月23日(土)一本杉公園の加藤家で、グリーンボランティア講座の講習生の懇親会があり、なな山緑地の会の宣伝を兼ねて紹介するため、出席しました。当日は午前中の講座のあと、お弁当とかまどで作った肉と野菜の入った汁物を皆で食べて、13時からいりりを囲んで懇親会が開催されました。



自己紹介から始まりましたが、何人かの方が既に何らかの活動をされており、雑木林管理についてはそれぞれ一家言をお持ちのようでした。

2,3人の方が、なな山緑地に興味をお持ちのような、発言をされていたので、なな山の良さを大いにPRしてきたつもりです。来年度、卒業生が何人かきてくださることを期待しています。(写真) = 懇親会の様子 (鎌田記)

私たちが、なな山緑地の雑木林の隣に木の家を建ててから、もう4年になります。引っ越して来た時おなかの中にいた末の子が、今年4歳を迎えたので、数えるのはとても簡単です。4年前、この土地を見つけ、初めて足を踏み入れた時は、冬。葉を落とした大きな木々の隙間からの日差しがとても暖かく、ウグイスの鳴き声がかかしこから聞こえていました。

子供たちを育てる場所として、こんな素敵な場所はないと思いました。

季節の移り変わりを、この雑木林に教えてもらいます。季節の折々に様々な野鳥が訪れ、きれいな歌声を聞かせてくれます。林から吹いてくる風は心地よく、夏は「クーラー要ら



ず」です。

私たちはここで子供たちと花や野菜を育て、日々必要なものを日曜大工で作ったりして楽しんでいます。庭にテントを張ったこともありましたが、夏にはカブトムシが飛んでくるし、冬は葉を落とした雑木林で遊びます。

以前、ヤブばかりだったなな山緑地は、今では野草が花を咲かせ、人が入りやすく親しみやすい場所になっています。こんな風になな山緑地を守り育てているボランティアの方々に尊敬しますし、そのお仕事の大事さを子供たちにも伝えていきたいと思っています。

(写真)上 = 散歩にきた二人のお嬢さんとお父さん
下 = 落ち葉で遊ぶ上のお嬢さんとお母さん

広げよう会員の和

リレー随筆(13)

なな山緑地は素敵！

望月久美子

私は大田区の雪ヶ谷というところに生まれ育ちました。坂を下っていくと呑川と呼ばれる川が有りました。その頃はあまり小さな川とは思っていませんでしたが、きっと大栗川や乞田川よりも小さかったのではないかと思います。地名が示すようにその昔は雪の谷だったところなのかもしれません。日蓮上人が行脚の際に足を洗われたので洗足池、水をお飲みになられたので呑川と名が付いたと聞かされていたように思います。私が育った頃は住宅街でもう畑も見当たらない街中になっていました。

そんな場所で育った私には木々に対する、森や林・山に対する知識は全く無く、野菜さえも知りませんでした。ですから、昨年卒業した森木会の講習会にはカルチャーショックを受けました。本で見た事を自分で作業しているのですから。

講習会終了後はどこかのグループへ是非とも参加させて頂きたいと思いました。講習会の時に訪れた、市が作った公園ではなく、里山と呼ばれるこのなな山がとても気に入りましたのでお仲間に入れて頂くことにしました。

通うには一番不便なところでしたので挫折するかもしれないと思っていました。が、とんでもない。見ることに、する事全てが楽しく、体力の無さ・無知・無い無いづくしを痛感しながらも毎回活動日を待っています。収穫した物を皆さんと料理していただくのも、いつもは仕方なく食べているお昼のお弁当も実に美味！これからはもうずっと続けて行きたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

さて、今回は最近出席率の高い高橋 彰さんにバトンタッチします。



(写真) = チェーンソー作業中の筆者

ナタワリカボチャ

なな山では、2年連続してカボチャを育てている。高木会長が長年作り続けているカボチャの苗を分けていただいたもので、ナタで割らないと割れないのでナタワリカボチャという。そのくらい外皮が硬いため冬至まで保存することが可能。



今年も4月の末に苗を定植し、5月半ばころから花が咲きはじめた。カボチャの花には、雄花(写真右上)と雌花(写真右中)があり、同じ株で雄雌二種の花を咲き分ける。雌花は咲く前から小さいカボチャ(子房)を蓄えているので、雄花と雌花がはっきりと見分けられることができる。キュウリ(写真左上)もウガン(写真左中)同じで雄花と雌花がある。



ウリ科の植物には多くみられるようで、この種の植物を雌雄同株(しゅうどうしゅ)という。

この他にもなな山では、クヌギ、コナラ、マツ、スギ、コウゾ(写真右下)などが雌雄同株だ。クヌギ、クリ、コナラは4月に雄花が下がり目立つが、雌花は小さく見つけにくい。が、マツボックリの赤ちゃんであったり、クリのイガの赤ちゃんだったり、その形はなかなかユニークで面白い。雌雄同株であっても、カエデのように一カ所から数本の花柄が伸びる花は、同じ束の中に雌花と雄花を咲き分ける。

春4月なな山ではアオキの花が咲くが、これには雄の木と雌の木があり、花の形も違う単性花であり雌雄異株(しゅういしゅ)といい、イチヨウ、サンショウ、キブシ、クワ、サルトリイバラなどがそれである。なな山の広場入口の右側にあるクワは雄の木で、左側にあるのは雌の木だ。

よって左の木には実がなるが右の木にはならない。新しく広がった東のエリアに1本あるキブシは雌の木で、今小さいぶどうのような形の実がなっている。



一般的に花の構造はひとつの花の中に雌しべと雄しべ数本がある。ソメイヨシノなどがそれで、両性花(雌雄同花)といわれ、花の代表格となっている。動物とは違い、植物の雌雄の形は一定ではなく、さまざまな形体がある。その原因は染色体によるもの、退化によるもの、またあるものは土の養分によって、雄雌が変わるものもあるという。動けないことが動物とは違う生存戦略を生み出したようだ。

なな山でも楽しめる自然の不思議だ。



キブシの雄花



キブシの雌花



アオキの雄花



アオキの雌花

2008・7・13(日)快晴！ 気温30

ジャガイモ収穫、猛暑！参加者20人超え！収穫したジャガイモを昼に茹でて食べる。参加者22人。

「作業」ジャガイモ収穫(写真右)、タマネギ収穫、草取り、サトイモ追肥、広場・道沿い草刈り、薪割り。

「観察」見つけた植物 = オカトラノオ、ヒメヒオウギズイセン、ヒメドコロ、オオバギボウシ、オオバトノボソウ、コナラの実、キブシの実、ヤマユリの蕾、ヒヨドリバナ、リョウブの花。



2008・7・27(日)快晴！ 気温31

市の看板が立つ、猛暑なので熱中症に注意して活動する。参加者19人。

「作業」サトイモの水やり、薪割り、薪の置き場作り、リメン・道沿い草刈り。

「観察」見つけた植物 = エビヅル、ミョウガの子、マンリョウ、ヤマユリ、アオツツラフジ、ヤブラン、サジガクビソウ、ヤブミョウガ。



2008・8・10(日)曇り 気温29

曇りで猛暑ややゆるむ、学生リポーター(男女)が参加、スイカなど差し入れあり(写真右)。参加者20人。

「作業」サトイモ水やり、ネギ収穫、草取り、耕し、広場・道沿い・リメン草刈り、看板作成。「観察」見つけた植物 = ヘクソカズラ、エビヅル、アオツツラフジ。(学生リポーターについては1頁に記事)



2008・9・14(日)曇りのち晴れ 気温29

朝は小雨だが日中は晴れて暑くなる、前回雨で活動が無かったので草が茫々(ポーポー)。参加者15人。

「作業」畑 = 草取り、カボチャ収穫、ダイコン種まき、ネギ苗植え(写真右)、広場・道沿い・リメン草刈り、なな山の由来看板張替え、崩れた道の修理、倒れた木の片付け、ヒノキに掛かる木の伐倒。「観察」見つけた植物 = クズ、ガクビソウ、ススキ、シラヤマギク、キツネノマゴ。



2008・9・28(日)曇り 気温15

涼しく作業しやすい、堆肥を畑に運ぶ、東の山の倒木整理、住宅付近の草刈り。参加者17人。

「作業」西谷の落ち葉囲いから堆肥を畑に運ぶ(写真右)、道路沿いのガードレールの間にロープを張る、東の山の倒木の片付け、住宅付近の草刈り。落ち葉囲いから、沢山出たカブトムシの幼虫は東奥の囲いに移し、保護した。

「観察」見つけた植物 = ヒガンバナ、ヤブマメ、ノササゲ、白いキノコ。

なな山だより 第13号

平成20年10月12日発行

発行 行

なな山緑地の会

発行責任者

高木直樹

住所

多摩市和田 1394 13

ホームページ

<http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>

編集委員

鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

今年の夏は暑かったので、長時間作業ができないほどでしたが、それでも沢山の参加者があり、少しずつでも作業を続けてきました。いよいよ活動に最適な季節です。東の山の整備に本格的に取り組んでいきましょう。 K